



完成した教え子の肖像画と高田画伯

戦死の教へ子を  
肖像画で慰霊  
彩管奉公の高田画伯

春陽会会員 高田力蔵氏は本所区本横国民学校（当時尋常小学校）の図画教師となつて、大正十一年から昭和十二年学校を辞するまで、ざつと五千名の児童に接してゐたが、かつての教へ子たちも立派に成長して続々戦線に向つてゆく。そして一人、二人……と護国の英霊となつて帰つて来るも

のがある。何かしら身近に迫る戦ひの感じから湧き起る奉公心を形にあらはすべく、去る七月、本横国民学校校長 近藤直太氏と協議の結果、まづ陸軍上等兵 古澤滋夫氏、故海軍航空一等整備兵 星野眞氏、故陸軍軍医大尉岩島啓昌氏の三人の教へ子の姿を描き漸く額縁の中に納め、近く母校を中心に盛大な贈呈式を挙げて遺族に贈ることになった。

なほ高田氏は乏しい資材の裡にも引続き戦死した教へ子の一人ひとりを描き上げると語つてゐる。

『朝日新聞』 昭和十八年九月十一日付

1943 4 December

昭和 18 年 9 月 11 日 「彩管奉公の高田画伯」朝日新聞